



ソプラノ歌手 矢野留美

求める音楽を追究し続けて 世界の舞台でも感動を与えていく

なでしこ力



矢野留美さん

ソプラノ歌手の矢野留美さんは、これまで1000人以上の音楽指導も行い、中国琵琶奏者の中国人の夫とともに名古屋を拠点にしてワールドツアーも行ってきた。夫は中国を代表する音楽家で、日本、中国をはじめ世界の舞台で公演し多くの人々に感動を与えている。公演の参加やNHK文化センターなどでの指導、夫の公演のマネジメントなど幅広い仕事をこなし忙しい毎日を送っている。

ソプラノ歌手として活動を続けてきた矢野さん。大学院生時代から、オペラ、ミュージカル出演のほか、音楽企画や大学の非常勤助手、「第九」をはじめ多くの合唱団の指導などを行ってきた。30年以上指導を続けているPTAコーラス団体もある。

夫の涂さんとともに演奏活動を続け、世界ツアーも何度も経験。北京国家大劇場での公演では、矢野さんが中国語で中国の代表的な楽曲を歌うと曲の途中から何度も大きな拍手が湧き起こった。「胸が熱くなりました。活動を通じて日中の心と心の交流を感じました」と振り返った。

涂さんは平成元年に来日、日本を拠点にして音楽活動を行う中で、矢野さんとはコンサートの共演で出会い93年に結婚。以来、名古屋を拠点に日本各地で音楽活動を行ってきた。来日前は中国の著名な中国琵琶演奏家で大学でも教鞭をとっていた涂さん。「中国民族楽器の王者」と呼ばれる琵琶の可能性を追求し、オーケストラや電子音楽との楽曲を創作するなど、東洋と

西洋との音楽を融合させてきた第一人者でもある。近年では「中国一帯一路政策」によるシルクロード関連諸国での中国主催の公演で音楽監督を務め、今年はずでにヨーロッパと南米で公演している。

夫妻は日本各地でのコンサート活動のほか、四川大地震、阪神大震災、東日本大震災などの復興支援コンサートも開催。名古屋第一赤十字病院でのクリスマスコンサートは25年以上続けている。ワールドツアーではアメリカ・カーネギーホールをはじめ、ロシアやフランスなど世界の大劇場を巡って演奏を行ってきた。

音楽を追求し続ける涂さんの出すアイデアを形にするため、矢野さんはプロデュースやマネジメント、裏方的な仕事も行っている。海外公演の際の各国のビザ申請の煩雑な手続きもその一つで、夫の音楽活動を様々な面でサポートしてきた。まさに夫唱婦隨の音楽活動である。

矢野さんは、たまたま隣家のお姉さんがピアノを教え始めたことを知り、小学4年生で念願だったピアノ教室へ通い始めた。高校3年で進